

市庁舎移転と浦和のまちづくり

市庁舎移転問題の現在

すでに報道にもちらほらと出てきている市庁舎移転問題。この間、行政内部でさいたま市本庁舎整備審議会が21回にわたり開催され、答申が市長へ提出された(2018年5月)。これを受けて現在内部で調査検討が行われており、近々、市長から正式に提案される予定だ。

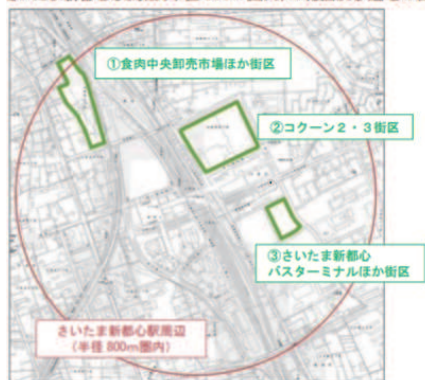
当審議会の合併後の市庁舎の扱いについては、もともとは2001年の合併時に交わされた「合併協定書」を基盤においている。

- (1) 当分の間、現在の浦和市役所
- (2) 将来の位置は、さいたま新都心周辺地域を念頭に、新市成立後、市民の利便性を考慮し検討
- (3) 市民参加による審議会を設置するなどして、速やかに検討を開始。庁舎建設基金を創設。

審議会答申の移転案は、いずれもさいたま新都心周辺で3案用意されている。

- ① 食肉中央卸売市場ほか街区 (大宮区吉敷町2丁目ほか)
- ② コクーン2・3街区 (大宮区吉敷町4丁目)
- ③ さいたま新都心バスターミナルほか街区 (大宮区北袋町1丁目)
このうち③三菱マテリアル跡地の暫定バスターミナル街区が有力と言われている。

さいたま新都心駅周辺(半径800m圏内)の範囲及び適地の位置



さいたま市本庁舎整備検討調査報告書より

浦和のまちとともにあった市庁舎

浦和側から見れば、市庁舎の「移転元」という立場となる。「新都心に移転します」といわれて、すぐに「はい、そうですか」というわけにはいかない。それは現在の市庁舎が、浦和のまちの歴史とともにあったからである。

1889年(明治22年)、浦和町が誕生した。この時、現在のロイヤルパインズホテルの地に町役場が置かれた。その後、1970年代に現在の市庁舎の位置に移動し今に至る。浦和駅西口の北西側に、庁舎はずっと存在し続けた。つまり浦和駅や北浦和駅における商業地域と密接に関わってきたのである。

3市合併時に商業の大宮に対し、浦和は「行政のまち」で「ワシントン」のようだ、と言われたのは、埼玉県庁とともに市庁舎の存在があったからだ。

すなわち、市庁舎の移転は、浦和駅西口エリアの在り方に大きな影響を与える大事業であり、簡単なものではない。これが浦和のまちに暮らしている多くの人たちの気持ちではないか。

分断を招くような
進め方はしてはいけない

実際の市民の意向はどうか。まだ市長から正式な移転案が示されていない中、唯一客観的と言えるのが、埼玉大学社会科学センターが昨年10月に公表した「政治に関する意識調査」の結果である。

Q 現在、さいたま市役所の庁舎は浦和区にありますが、さいたま新都心駅周辺への移転が望ましいとの答申がされています。あなたは、庁舎は移転すべきだと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1. さいたま新都心に移転すべきである 38%
2. 浦和区から移転すべきではない 37%
3. わからない 24%
4. その他の場所が良い 1%

※さいたま市選挙人名簿から1000人を無作為抽出。62%が回答。

つまり移転「賛成」「反対」が、ほぼ同数で拮抗している。このように意見が二分されている現在、移転先のことだけを想定した移転ありきの内容では、移転元の反対の盛り上がりは免れないだろう。私は1999年から2001年まで2年間にわたって浦和市議を務めたが、この時、合併に反対したのは「浦和のままがいい」との想いを根底に置いていたからだ。移転元への相当の配慮が不可欠だ。民主主義の手続きで決定した合併の時計の針を戻さないためにも、今後、浦和 VS 大宮の様に、分断する構図を作ってはならない。

昨年12月16日「市庁舎及び行政区の在り方検討特別委員会」が開催され、委員である私も出席した。この時に中間報告として、この市庁舎移転について担当者から資料が提示された。この時、移転先の新都心の案は



かなり詳細に記されていた。一方で移転元の浦和のほうは… A4紙1枚に簡条書きで抽象的な文言が並ぶだけであった。あまりのお粗末さに、強い口調で発言をし「このような姿勢だと市内で分断を招く」との指摘をした。

移転は
浦和駅西口エリアの
まちづくりとともに

市庁舎の跡地に何かを持ってくれば解決する、という小さな話ならば、簡単に賛同することはできない。浦和駅西口エリアのまちづくりと合わせて考えたい。



浦和市中心市街地活性化区域図 (2000年3月)より

市庁舎とともに発展してきた浦和駅西口エリアは、今、更新の時期を迎えている。

- 耐震化・修繕…埼玉会館・市庁舎
 - 解体…県立浦和図書館
 - 計画・建替中…市民会館を含んだ高砂再開発・NHK浦和放送局移転(市民会館うらわ跡地)・ナカギンザビル(建替中)
 - 今後…埼玉県庁(約66年)・伊勢丹/コルソ(40年目)・イトーヨーカドー(49年目)・高砂小学校ほか
- 官民で主な建物を挙げただけでもこうした状況にある。

この更新を、それぞれの「点」で行うのではなく、「面」としてエリア全体で融通しあい、公園や公開空地を産み、街並みを整えていきながら、賑わいや魅力を高めていくことができるのではないかと。これまで市庁舎がこのエリアに果たす役割が大きかったことを考えれば、移転の話とこの浦和駅西口エリアのまちづくりを同時に進めていかねばならない。伝統的な文教都市としての特長も充実させ、新たなデジタル化社会の視点も盛り込む。結果的に、移転先も移転元も、未来に希望が持てる構想ならば、広く賛同を集めるものとなるだろう。

この問題は都心の在り方を左右する重要な位置づけにあり、市庁舎移転の是非や浦和の未来構想案も併せて、今後も継続して取り組んでいきたい。

